

第 1 回検討会での主なご意見

- 新たな調査体系を検討するためには、調査の活用目的から掘り起こすことが重要である。
- 道路交通センサスは、これまで長期的な道路計画へ活用するため、平均的な交通の状況や将来の動向を把握することに主眼が置かれてきた。一方、近年は災害時などリアルタイムな交通状況の把握が求められている。
- 観測体制について、全国単位では難しいが、例えば、地整単位で施策ニーズにあわせて効果的なデータ取得箇所の検討を始めていくべき。
- 常時観測体制ではデータが大量蓄積されていくため、どのように保管・活用していくかが重要である。究極は、24 時間 365 日の観測し続けることだが、コストもかかるため、災害などイベント前後のデータを必要なときに抽出できるリアクティブな仕組みを検討しておくが良い。
- 今後どのような調査体系を目指すべきかについては、自動車だけでなく他の交通との連携を主軸に置くべき。道路は都市における最大の公共空間であり、道の駅、風景街道、自転車ネットワーク、自動運転などの取組を実施してきている中で、その価値を最大限高めることは重要である。
- 産学官の連携については、民間のビッグデータも研究開発が進んでおり、その力と道路交通センサスをいかにつなぐかが重要である。また、大都市交通センサスやパーソントリップ調査など、国交省内の横串も重要である。